

クリの結果母枝途中からの二次伸長結果母枝の生育及び着穂状況

2024年秋から冬に特異的にみられた結果母枝の途中から二次伸長した結果母枝は、「ぼろたん」で多く見られた。それらの結果母枝から発生した雌花の開花期と着穂した果実収穫期は通常結果母枝と大きな差はなく、結果母枝当たりの着穂数と健全果重量は通常結果母枝より少ない。

農業研究センター球磨農業研究所(担当者:鶴岡奈緒)

研究のねらい

2024年の秋から冬にかけては、クリの結果母枝において通常みられる枝先端からの二次伸長ではなく、結果母枝の途中から二次伸長している枝(以下、二次伸長結果母枝)が見られた(図1)。この結果母枝にどの程度着穂するかを明らかにする。

研究の成果

1. 二次伸長結果母枝(図1の(C))は、「ぼろたん」で特に多く「杉光」「美玖里」でも散見された。
2. 二次伸長結果母枝(C)は、通常結果母枝(図1の(A))より展葉はやや遅いが、雌花と雄花の開花時期に大きな差はない。収穫始期と収穫盛期は、通常結果母枝(A)の収穫期間内である(表1)。
3. 二次伸長結果母枝(C)の着穂数は、分岐元の結果母枝(図1の(B))より多く、通常結果母枝(A)より少ない(表2)。
4. 1穂当たりの含果数と一果重には結果母枝の種類による差はみられないが、結果母枝当たりの健全果重量は通常結果母枝(A)が分岐元の結果母枝(B)と二次伸長結果母枝(C)より多い。(表2)。

成果の活用面・留意点

1. 本試験は、球磨農業研究所内において、通常みられる枝先端からの二次伸長ではなく結果母枝の途中から二次伸長している枝が見られた「杉光」10年生「ぼろたん」19年生「美玖里」10年生(2024年時点)の樹を用いて実施した結果である。
2. せん定時は、結果母枝途中からの二次伸長がない充実した結果母枝を5~7本/m²確保する。本数が不足する場合には分岐元の結果母枝と二次伸長結果母枝を併せて使用できる。

【具体的データ】 No. 1162 (令和8年(2026年)5月) 分類コード 02-10 熊本県農林水産部

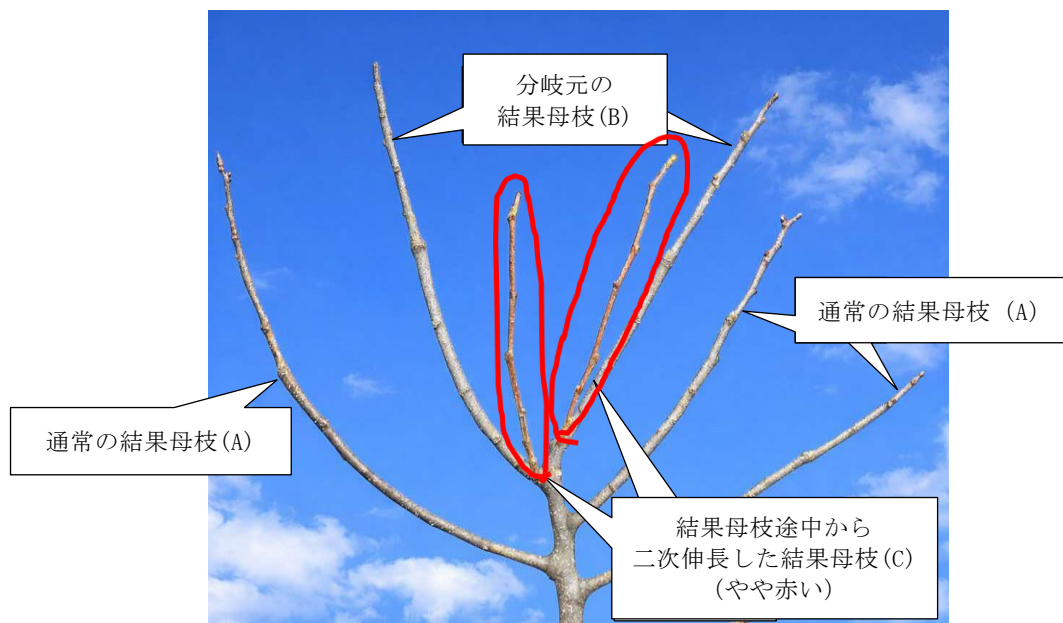


図1 結果母枝途中からの二次伸長結果母枝

表1 結果母枝の種類ごとの生育状況(2025年)

品種	結果母枝の種類	展葉	雌花		雄花		収穫期		
			始	盛	始	盛	始	盛	終
杉光	通常(A)	4/11	5/23	5/27	6/1	6/5	9/1	9/15	9/29
	分岐元(B)	4/11	5/23	5/27	6/1	6/5	9/10	9/15	9/29
	二次伸長(C)	4/17	5/22	5/25	6/1	6/5	9/5	9/15	9/26
ぼろたん	通常(A)	4/13	5/18	5/25	5/25	5/30	9/1	9/8	9/22
	分岐元(B)	4/13	5/18	5/25	5/25	5/30	9/1	9/10	9/22
	二次伸長(C)	4/17	5/18	5/25	5/25	5/30	9/3	9/15	9/22
美玖里	通常(A)	4/17	5/24	5/29	6/5	6/8	9/25	10/13	10/28
	分岐元(B)	4/17	5/24	5/29	6/5	6/8	10/6	10/13	10/24
	二次伸長(C)	4/18	5/25	5/29	6/5	6/8	10/3	10/10	10/20

表2 結果母枝の種類ごとの着果数及び果実品質、母枝当たり健全果重量(2025年)

品種	結果母枝の種類	着果数			果実品質				母枝当たり健全果重量(g)
		6/10	7/20	8/20	含果数	1果重(g)	健全果率(重量%)	比重	
杉光	通常(A)	5.2	5.0	4.5	2.46	17.8	60.0	1.068	118.2
	分岐元(B)	1.3	1.0	0.7	1.25	23.3	49.1	1.080	10.0
	二次伸長(C)	3.5	3.0	2.4	1.54	23.7	58.4	1.045	51.0
ぼろたん	通常(A)	5.6	4.5	3.0	1.53	25.1	64.2	1.082	74.0
	分岐元(B)	1.8	1.5	1.1	1.22	23.9	71.5	1.063	23.0
	二次伸長(C)	3.1	2.7	1.6	1.35	24.4	62.2	1.074	32.8
美玖里	通常(A)	4.6	4.3	3.4	1.47	30.5	61.4	1.084	93.6
	分岐元(B)	1.7	1.7	1.0	1.80	30.2	49.7	1.094	27.0
	二次伸長(C)	3.4	2.9	2.6	1.76	29.2	49.3	1.087	66.3